

## 石川県警察本部との連携による少年犯罪立ち直り支援活動

団体名：人間科学部スポーツ学科池田ゼミナール

代表者名：池田幸應

### 1 はじめに（背景・目的・目標）

社会生活での情報化が急速に進み、私たちを取り巻く生活環境も大きな変化している。子どもたちにとってもゲームやパソコン、スマホが普及し、その利便性の一方で、疑似体験や間接体験などバーチャル世界と親密化により、自然体験活動や他の人々とのコミュニケーションの機会が減少している。これも子どもたちの非行への1つの要因と指摘されている。警視庁でも「地域の少年は、地域で育てる」という意識をもって地域ぐるみでの取り組みの重要性を指摘している。

石川県においても、石川県警察本部少年課「少年サポートセンター」と本学人間科学部スポーツ学科池田ゼミナールが連携・協働し、継続的に非行少年の立ち直り支援活動を行っている。本ゼミナールは、野外教育、スポーツ教育、地域ボランティアの視点から、地域活動を通して、ゼミナール学生の学びの向上と地域貢献の推進をテーマに取り組んでおり、これまでのゼミナール所属学生の警察官志望者の複数存在も相まって、継続的に高齢者の交通安全推進や子どもたちの健全育成等の警察事業にも関わってきている。今回は、非行少年への自然体験活動による健全育成へのサポート活動として、継続的にゼミナールで協働参画している少年サポートセンターでの「あすなる塾」の活動を中心に上げる。

### 2 活動内容

本年度における直り支援活動として、農業体験及び自然体験活動支援、また学習支援等を以下の日程で実施した。なお、本学においても犯罪被害防止キャンペーンを実施した。

#### (1) 農業体験支援

- ・4/6：ジャガイモ種植え準備（施肥、耕し）
- ・4/13：ジャガイモ種植え
- ・5/10：ジャガイモ芽欠き
- ・5/24：野菜の苗植え、看板設置

- ・6/30：案山子作り及び設置、夏野菜の収穫、除草
- ・7/21：ジャガイモ収穫、夏野菜収穫、除草
- ・8/21：大根種まき、夏野菜収穫、カレー作り
- ・9/5：大根種まき、夏野菜の片付け
- ・9/26：大根間引き
- ・10/27：サツマ芋収穫
- ・11月17日大根収穫
- ・12月21日サツマ芋を使ったお菓子作り



写真1 野菜の苗植え活動時での看板設置 (5/24)



写真2 さつまいも収穫での少年、学生、センター職員(10/23)

#### (2) 自然体験活動支援

- ・日時：8/22 日帰り
- ・場所：穴水町中居地区中居湾及び大龍寺
- ・内容：漁業体験及び座禅体験

ゼミナールとしても活動拠点の1つである穴水町において、漁業体験（漁船乗込み体験、ボラ待ち櫓・牡蠣棚見学、釣り体験）及び座禅体験を行った。



写真3 漁業体験後に地元漁師に挨拶する少年

また、昼食には、小学校の廃校活用として、地元の主婦団体が運営している「かあさんの学校食堂」において、地元食材を使った田舎料理を味わった。本活動には、少年とその保護者、サポートセンター職員、警察官、そしてゼミナール学生が参加し、奥能登の自然の中でゆっくりと時間を過ごした。



写真4 「かあさんの学校食堂」での昼食の様子

### (3) 少年への「学習支援」

今回、活動に参加している教職希望学生(4年次)は、石川県警察本部及び教育委員会、そして保護者からの依頼により、中学3年生男子生徒の学習支援を行っている。月1~2回程度で、立ち直り支援施設において、継続的にマンツーマン形式でこれまでの足りない学力補充に向けて学習支援を行っており、これを機会に、少年は高校進学への意欲が出始め、私立高校は合格し、公立高校入試に向けて頑張っている。

### (4) 「犯罪被害防止キャンペーン」

- ・日時：8/22 日帰り
- ・場所：本学3階学生ホール及び1階中庭スペース
- ・内容：本学学生に対する犯罪被害防止

東警察署生活安全課の警察官らと共に、本学学生に対して、犯罪に巻き込まれたり、犯罪を起こさないように、犯罪被害防止に向けた資料やティッシュを配布し啓発に尽力した。



写真5 左:3階学生ホールでの犯罪防止活動の様子  
写真6 右:1階中庭スペースでの犯罪防止活動の様子

## 3 成果、結果の考察

一般的に多くの学生にとっては、非行少年に接したり、彼らの更生活動に参画することは、あまりないものと推測される。しかし、現在の子どもたちを取り巻く社会状況下では、犯罪の低年齢化及び凶悪化が進み、これから親となるべき年齢層の大学生、また、学生自身にとっても「犯罪」は決して遠い存在ではない。活動に継続参画しているゼミナール学生にとっては、犯罪に対する抑止意識や子どもたちへの健全育成への関わり意識が向上するものと推測される。実際に、これまで本活動に参画したゼミナールOBの多くが、現在警察官として地域社会で活躍している。また、警察や少年サポートセンター等にとっても、少年に近い年齢層の大学生との連携による非行少年の立ち直り活動は、より効果的側面も有すると考えられる。

## 4 今後の課題、展望

現在、ゼミナール学生中心に取り組んでいるが、異なる専門性や視点を有する他大学の学生や高校生等とも交流・連携して取り組むことも望まれる。なお、来年度は、本学経済学部とのゼミナールとも連携して取り組む予定である。